

Title	事業複合体としての大リーグ球団価値
Sub Title	
Author	柱本哲也(Hashiramoto, Tetsuya) 鈴木貞彦
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1368号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1368">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1368</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 事業複合体としての大リーグ球団価値

大リーグ球団経営を評価し、経営上のどのような要因が大リーグ球団価値の増大に寄与するのかを研究することが本論文の目的である。

収入・支出面での要因よりも、大リーグ球団の所有形態が大リーグ球団価値の増大に結びつくという問題意識からこの論文は始まる。

そのために、大リーグ球団価値とはいかにして測ることが出来るのか。フランチャイズ価値と大リーグ球団価値（＝大リーグ球団の株主資本価値）との整合性を検証し、大リーグ球団の株主資本価値にかわる球団価値評価基準を設定した。

その基準に基づき、4つの所有形態に大リーグ球団経営を分類し、大リーグ球団価値最大化の決定要因の検証を行った。

その結果、個人オーナーや企業体が投資を行い、球団経営を行っていくよりも、個人投資家集団が経営を行っていくほうが、効率性や税法上の面での利点から大リーグ球団価値は高いことが確認された。また、投資家集団の中に、大リーグを他のビジネスに応用できる事業を行っている事業経営者が加わると、さらに大リーグ球団価値は高いことが確認された。

データ収集の関係上、すべての大リーグ球団経営についての検証を行うことは出来ず、いくつかの代表的な経営を行っている球団を事例研究した。大リーグ球団経営に限らず、すべてのプロスポーツ球団について調査・検証を行っていないところに本論文の限界がある。